

平成 24 年度公益社団法人京都染織文化協会セミナー

日本の衣服 —技術と文化を語る シリーズ①—

「邪馬台国 卑弥呼と古墳時代の女性衣装」

古墳時代とは、ヤマト王権が確立した 3 世紀半ばすぎから 7 世紀末頃までの約 400 年間を指すと言われています。大王（おおきみ）を中心として、豪族、民衆と身分の違いがあり、その暮らしぶりにははっきりと分離されていました。この頃の女性の衣服は上着となる「衣（きぬ）」、プリーツスカートを思わせる「裳（も）」、これらをまとめる倭分布（しづり）の「帯」、肩からまとう「領布（ひれ）」が基本のスタイル。この衣服のかたちは邪馬台国の時代より確立しており、素材は麻地が主でしたが、すでに弥生時代より盛んであった養蚕、機織の技術により身分の高い人は絹地の衣服を身にまとっていたことが伝えられています。

今回は日本の染織文化の基盤となった古墳時代にスポットをあて、大阪大学大学院教授で歴史学者の武田佐知子先生をお迎えし、古墳時代の社会や文化、衣服についてお話いただきます。また、邪馬台国の卑弥呼は何を着ていたのか…今も多くの謎を持つ卑弥呼の衣服についてもせまります。

当日は当協会所蔵の上古時代衣装と装身具も併せてご覧いただきますので、ぜひこの機会に多くの皆様のご参加をお待ちしております。

講師 ^{たけだ}武田 ^{さちこ}佐知子 氏（大阪大学大学院文学研究科教授・歴史学者）

<プロフィール>1971 年早稲田大学第一文学部卒業（日本史学専攻）。1997 年大阪外国語大学外国語学部教授、2007 年大阪大学理事・副学長を経て現在に至る。1985 年度サントリー学芸賞、2003 年紫綬勲章受章。著書に『古代国家の形成と衣服制—袴と貫頭衣』（吉川弘文館<戊午叢書>1984 年）『衣服で読み直す日本史—男装と王権』（朝日新聞社<朝日選書>1998 年）などがある。

日時 平成 24 年 10 月 30 日（火）

14:00~16:00（受付 13:30~）

会場 京都産業会館 5 階 コムスホール

下京区四条通室町東入 Tel.241-3147

参加料 無 料



※参加ご希望の方は、別紙参加申込書に必要事項をご記入の上 10月19日（金） までにお申込み下さい。

平成24年10月30日（火）のセミナーに参加します。

回報先 FAXNo.(075)211-1976

会社名	
参加者名 (名)	